

【芸西村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒は、1人1台端末を通じて、個々の理解度や学習ペースに合わせた、より1人1人の児童生徒の実態に応じた学習計画に基づいて学びを進めるものとする。さらに、学習データを活用し、生成AI等により、リアルタイムにフィードバックを受けたり、学習におけるアドバイスを受けたりすることで、自らの可能性を最大限に引き出すことができ、学習に対して、高いモチベーションを維持することを目指したい。

2. GIGA第1期の総括

本村では、GIGAスクール構想の下、令和2年度に小中学校の児童生徒1人1台端末の整備を完了した。また、端末等ICTの活用の基盤となるインフラ整備に当たっては、1人1台端末の利用等を想定し、令和3年度に小中学校における情報ネットワークのセキュリティの強化及び周辺機器の整備を行うなど、情報環境整備の更新に関し計画的に進めている。

小中学校においては、生徒1人1台端末環境及びクラウド環境が実現したことで、授業等の様々な場面でICTの活用が進み、生徒がそれらを活用して情報収集したり、資料を共有したり、ドキュメント、スライド作成をするなどの学習活動が実施できるようになった。その一方で、校務や授業におけるICT活用の頻度等については、教職員間で差がついていることが課題である。教職員自身のICT活用能力を向上させ、活用場面を増やすために、教職員誰もが積極的に活用したくなる体制づくりや、授業面では、教科の特徴を踏まえながら授業でのICT活用場面や活用方法を具体的にイメージできるよう、参加型の研修や教職員同士が意見交換できる場の設定等の支援を行っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想第2期で更新する1人1台端末について、その効果的な利用促進に向け、次の3つの視点から取り組んでいく。

(1) 「1人1台端末の積極的な活用」

GIGA1期において整備したICT機器を効果的かつ効率的に活用し、学校における教職員や児童生徒の学習活動をサポートするアプリの導入を進め、1人1台端末の利活用機会を促進する。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

小中学校で導入している、AI型ドリルを中心に、弱点の克服や自主的・主体的な学びの促進など、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた学習環境を提供していく。また、AIドリルの導入により、教師は児童生徒一人ひとりの学習傾向や取組状況をよりの確に把握することができ、それらの学習データを効果的に生かすことのできる機能や教材によって、支援の

必要な児童生徒への適切な指導やよりよい授業づくりを目指す。

（３）「学びの保証」

不登校の児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒及び支援が必要な児童生徒等に対し、１人１台 端末を活用することで学びの幅を広げ、様々な状況の児童生徒の学習機会を確保していく。また、オンライン学習の充実や、児童生徒の思いや実態に応じ、児童生徒が自ら選択し、主体的な学習を進めるために AI ドリル等の整備を継続することで、学習の効果を高める取組を行う。